

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード	
(1) 現在進行中の社会変化 (第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	(第1回)ビッグデータ、IoT、AI データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化している現状について知る。 (第3回)社会で起きている変化 Society5.0、5G、データ駆動型社会といったキーワードをもとに、現在の高度情報化社会について考える。	
	1-6	(第2回)人間の知的活動とAI AIの歴史と現状について知る。 (第6回)データ・AI活用の現場 企業や自治体、医療分野等におけるAI技術の活用事例を知り、AIがどのように私たちの生活と関わっているかを知る。	
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	(第4回)社会で活用されているデータ 1次データ、2次データ、メタデータ、非構造化データなどをキーワードとして、データが私たちの生活でどのように活用されているのかを知る。□	
	1-3	(第5回)データとAIの活用領域 データ・AIは様々な領域で広く活用されていることを事例を交えて学び、それぞれの目的ごとに多種多様な成果が得られていることを知る。	
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域 (流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	(第7回)データ・AIを実現する手法 ・予測、パターン認識、シミュレーションなど、さまざまなデータ解析の種類を知る ・画像・動画処理や音声・音楽処理などの非構造化データの扱い方を知る。 ・機械学習の概要を知り、AIが出来ること、出来ないことについて考察する。	
	1-5	(第6回)データ・AI活用の現場 企業や自治体、医療分野等におけるAI技術の活用事例を知り、AIがどのように私たちの生活と関わっているかを知る。□	
(4) 活用に当たったの様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	(第12回)データ・AIを扱う上での留意事項 個人情報の保護、GDPR、ELSI、人間中心のAI社会原則などをキーワードとしてAI時代における倫理的、法的、社会的な課題についてその現状を知り、私たちが留意する点について考察する。□	
	3-2	(第13回)情報セキュリティ ・機密性、完全性、可用性をキーワードにデータを守るための原則を学ぶ。 ・情報漏洩やデータの損失による問題と、それらに情報セキュリティ対策の重要性について学ぶ。 (第14回)情報倫理 ・データ倫理の基礎とSociety5.0におけるデータ倫理の重要性について学ぶ。 ・データ・AI活用における負の事例を知り、AIが引き起こす可能性がある問題について考察する。□	
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での事例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	(第8回)統計学の基礎 代表値、データの分布、記述統計学の基礎を学ぶ (第9回)データの種類と表現 ・質的データ、量的データほか、様々なデータ分類について知り、それらの性質によってデータの扱い方が異なることを知る。 ・様々なデータを集計、可視化するための基本を学ぶ。 (第10回)データを読む 多種多様なデータの傾向や特徴から得られる情報を正確に解釈するための基礎を学ぶ。□	
	2-2	(第11回)データを説明する 時系列データ、文章データ、データの可視化について学び、第三者に正しく伝わるデータ表現について演習を通して学ぶ。□	
	2-3	(第10回)統計情報の正しい理解 私たちが参照できるデータを知り、様々なデータベース (オープン統計データ) から何が読み取れるのかを体験学習を通して学ぶ。□	

⑦ プログラムの学修成果 (学生等が身に付けられる能力等)

<ul style="list-style-type: none"> ・AIの概要と、AIとデータが社会でどのように活用されているのかを説明できる。 ・様々なデータを正しく読み、表現するための基礎的な技能を修得する。
--

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和5 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数合計	履修率
	うち女性				履修者数	修了者数												
社会福祉学部	464	256	160	660	54		32	22	4	3							90	14%
子ども学部	149	92	70	280	20		5	5	0	0							25	9%
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
合計	613	348	230	940	74	0	37	27	4	3	0	0	0	0	0	0	115	12%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	43	人
(非常勤)	55	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

1	人
---	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	檜木博之
(役職名)	教務部長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	静岡福祉大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会
------	----------------------------------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	静岡福祉大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営規程
------	---------------------------------

⑥ 体制の目的

静岡福祉大学における数理・データサイエンス・AI教育プログラムの運営、評価及び改善を図る。

⑦ 具体的な構成員

教務部長(委員長)
 社会福祉学部代表教員
 子ども学部代表教員
 教務課職員
 必要に応じて、地域連携推進センター教員、外部有識者(福祉施設、自治体、教育機関等)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	12%
令和8年度予定	30%
令和9年度予定	50%
令和10年度予定	75%
令和11年度予定	100%

具体的な計画

本科目は「全学共通基礎科目」の「データサイエンスの基礎」として位置づけている。現在は選択科目として位置付けているが、今後は履修推奨科目、そして選択必修科目として位置づけることも検討していく。また、今後はカリキュラムの見直しを行う際に、科目の増加、応用基礎レベルの導入も合わせて検討していく。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムの科目は、全学部が履修可能な共通基礎科目として位置づけている。そのため全学部の学生が履修することが可能となっている。今後、学生が該当科目を履修するよう、本プログラムの周知を図っていく。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

教授会等にて、教職員に認定制度の趣旨と本学の取り組みを周知し、学生への履修指導に繋げていく。学生への周知は、年度初めの「オリエンテーション」の場で、認定制度の趣旨、修得するための方法等を伝える機会を作っていく。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

前期に周知を行い、後期に履修できるように該当科目を配置している。また1年時に履修しやすくするよう専門科目と重ならないように時間割を作成している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業内では、毎回の授業でミニレポートに質問欄を設けていて、質問等があれば次の授業で解説・補足を行っている。授業外ではオフィスアワーにて質問等を受け付けている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 静岡福祉大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会

(責任者名) 檜木博之
(役職名) 教務部長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	2024年度における「データサイエンスの基礎」科目は、社会福祉学部および子ども学部の学生37名が履修した。選択科目であるため履修者数は多くはないが、大学全体としては標準的な水準である。 単位取得状況については、27名(73%)がC以上の成績で単位を取得しており、成績評価および単位認定は概ね適切に実施されたと判断される。
学修成果	本プログラムの到達目標は、シラバスにおいて「様々なデータを正しく読み、表現することができる」こと、および「AIの概要を理解し、データが社会でどのように活用されているのかを説明することができる」と明示している。 これらの目標に対する習熟度については、各回の授業において確認のための小テストや演習を実施するとともに、簡易なアンケートを通じて学生の理解度および講義内容の適切性を分析し、その結果を次回の講義内容に反映してきた。また、小テストおよびレポート課題については、次回の授業で解説を行い、理解の定着を図るよう努めた。 成績評価の基準は、各回の小テストおよびレポート課題を60%、学期末の総合レポート課題を40%として総合的に評価した。学期末のレポート課題は、各回の内容をふまえた総合演習として位置付けている。 講義終了後に実施した授業アンケートにおいて、「授業の内容は理解できた」との設問に対して、96%の受講者が肯定的回答(「強くそう思う」「ややそう思う」)を示した。 以上の結果から、学生は概ね到達目標を達成しており、本講義の教育効果は十分に認められると判断される。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	講義終了後、受講者全員を対象として無記名式の授業アンケートを実施したところ、9名から回答(回答率24.3%)を得た。 調査項目は、①学習意欲、②指導の適切性、③理解度、④満足度の4項目である。 「この授業の目標を達成するために真剣に授業に臨んだか」との設問に対しては、肯定的回答(「強くそう思う」「ややそう思う」)が100%であった。 また、「授業の内容は理解できた」との設問では、肯定的回答が89%であった。 これらの結果から、受講者の学習意欲および講義内容の理解度はいずれも高く、授業目標は概ね達成されたと判断される。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	授業アンケートにおける「この授業に満足しているか」との設問に対して、全受講者(100%)が肯定的回答(「強くそう思う」「ややそう思う」)を示した。 この結果は学内の授業評価システムを通じて全学生に公開されており、翌年度以降の履修希望者の増加にも寄与したと考えられる。 以上のことから、本講義は受講者の満足度が高く、後輩学生に対しても履修を推奨できる授業であったと評価される。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況	今後は、オリエンテーション等の機会を活用して本プログラムの内容および意義を定期的に周知し、履修率の向上を図る予定である。 また、本プログラム修了者に対しては修了証を授与し、学修成果を可視化することで、学生の達成感を高めるとともに、就職活動等における活用を促すことを計画している。 これらの取組を通じて、学生の履修意欲の喚起および履修者数の増加が期待される。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本科目を設置して、まだ卒業生が出ていないので修了者の進路は決定していない。本学の卒業生が就職する福祉、医療、教育等の分野では、DX化が課題となっているので、事業所等からはそれに対応できる人材育成への期待がある。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	DX化に対応できる人材を育成していくために、本学卒業生が働いている事業所等からの要望を聞き、カリキュラムに反映させていく。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	福祉・医療・教育・企業等のいろいろな現場で、データ等をどのように活用しているのかなどのお話を聞く機会を作る。また受講生がデータを分析していくという体験する機会を増やしていく。そして授業で学んだことを、現場で実践できるようにしていく。
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	現在の状況に合わせて毎年度教育内容の見直しを行っていく。また受講生、就職先の事業所等にアンケートを行い、それぞれのニーズを把握し、教育内容を見直していく。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
岡澤裕子			
添付ファイル			

実務経験のある教員／アクティブ・ラーニング(必須)	科目に関連した実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 経歴と授業内容 アクティブ・ラーニングの導入 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 アクティブ・ラーニングの内容 <input type="checkbox"/> 発見学習 <input type="checkbox"/> 問題解決学習 <input checked="" type="checkbox"/> 体験学習 <input checked="" type="checkbox"/> 調査学習 <input type="checkbox"/> グループ・ディスカッション <input type="checkbox"/> ディベート <input type="checkbox"/> グループ・ワーク <input type="checkbox"/> その他 ※「その他」の内容
---------------------------	--

テーマ	統計学とコンピュータ科学
授業計画	第1回 ガイダンス ビッグデータ、IoT 第2回 人間の知的活動とAI キーワード：AIの歴史、2045年問題 第3回 社会で起きている変化 キーワード：Society5.0、5G、データ駆動型社会 第4回 社会で活用されているデータ キーワード：1次データ、2次データ、メタデータ、非構造化データ 第5回 データとAIの活用領域 キーワード：グルーピング、クラスタリング、コンピュータシミュレーション 第6回 データ・AI活用の現場 キーワード：ブロックチェーン、リーサス 第7回 データ・AIを実現する手法 キーワード：強いAI、弱いAI、機械学習、過学習、未学習 第8回 データを読む① 統計学の基礎 キーワード：母集団、標本、記述統計学、推測統計学 第9回 データを読む② データの種類と表現 キーワード：質的データ、量的データ、基本統計量 第10回 データを読む③ 統計情報の正しい理解 私たちが参照できるデータについて調査学習を通して知る。 また、様々なデータベースから何が読み取れるのかを体験学習を通して学ぶ。 キーワード：データベース、データ加工、データ収集 第11回 データを説明する 第3者に正しく伝わるデータ表現について体験学習を通して学ぶ。 キーワード：時系列データ、文章データ、データの可視化 第12回 データ・AIを扱う上での留意事項 キーワード：GDPI、ELSI、人間中心のAI社会原則 第13回 データサイエンスと情報セキュリティ キーワード：機密性、完全性、可用性

	<p>第14回 データサイエンスと情報倫理 キーワード：オープンデータ、CCライセンス、ディープフェイク、データバイアス</p> <p>第15回 授業の総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 データサイエンスやAIに関する知識を網羅的に学ぶとともに、データやAIに対する扱い方の基礎を身につける。</p> <p>【到達目標】 様々なデータを正しく読み、表現することができる。また、AIの概要を知り、データが社会でどのように活用されているのかを説明することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 DP1、DP2、DP3</p>
テキスト	使用しない。
参考文献	講義中に紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	授業中に実施する課題と学期末のレポートで評価します。（配点 60：40） 授業で実施・回収したレポート課題は、次の回の授業内で総評と解説を行います。学期末のレポートに関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行います。
質問・相談の受付方法	毎回の講義で課すミニレポートに質問欄を設けるので、記入してください。質問事項に関しては次回の授業で解説・補足します。 その他、オフィスアワー（後日掲示）もご利用ください。
履修条件	特に設けません。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	AIの概要を知り、高度情報化社会における私達の日常生活の変化を認識し、高度情報化社における変化に柔軟に対応し、情報化技術を十分に活用できる力を身につけていきましょう。 また、情報技術を活用する方法について一緒に考えていきましょう。
準備学習について	【事前学習】 授業計画に記した「キーワード」について、事前に調べて授業に臨むこと。まとめと演習の回では事前に課す課題に目を通しておくこと（2時間） 【事後学習】 毎回の授業で課す課題と授業の復習を行い（2時間）、内容を理解して次回の授業に臨むこと。
科目ナンバリング	【2023入学生】 23AN-1L35 【2024入学生】 24AN-1L35 【2025入学生】 25AN-1L35

【全学共通基礎科目】2022～2025年度入学者

	分野	科目名称	講義形態	配当年次	単位数	教員氏名	専任/非常勤	備考欄
全学共通基礎科目	人文科学	現代社会と心理	講義	2年前期	2	上野 永子	専任教員	
		日本語A	講義	2年前期	2	宇都宮 裕章	非常勤講師	
		日本語B	講義	2年後期	2	村松 純光	非常勤講師	
		発達と学習の心理学	講義	1年後期	2	開講	しない	
		日本現代文化論	講義	1年後期	2	開講	しない	2022入学者対象科目
		日本語表現法A	講義	1年前期	2	開講	しない	2022・2023入学者対象科目
		日本語表現法B	講義	1年後期	2	開講	しない	2022・2023入学者対象科目
	社会科学	現代日本の経済	講義	2年後期	2	山下 隆之	非常勤講師	
		日本国憲法	講義	1年後期	2	国京 則幸	非常勤講師	
		世界の歴史と福祉	講義	2年前期	2	開講	しない	
		多文化とあそび	講義	2年後期	2	木戸 直美	専任教員	
		ソーシャル・キャピタル論	講義	1年前期	2	芳賀 道匡	専任教員	
		福祉文化とボランティア	講義	1年後期	2	渡邊 英勝	専任教員	
						谷 功	専任教員	
		家政学	講義	1年後期	2	田崎 裕美	専任教員	
		障害者福祉論	講義	1年前期	2	木下 寿恵	専任教員	
		生活の経営と経済	講義	2年後期	2	田崎 裕美	専任教員	
		焼津地域学	講義	2年前期	1	岡澤 裕子	専任教員	2023以降入学者対象科目
		働く人たちの仕事と生活	講義	1年前期	2	富田 晋司	非常勤講師	寄附講座
		日本史	講義	1年前期	2	開講	しない	2022入学者対象科目
		外国史	講義	1年前期	2	開講	しない	2022入学者対象科目
		比較文化論	講義	1年前期	2	開講	しない	2022入学者対象科目
		日本現代社会論	講義	1年後期	2	開講	しない	2022入学者対象科目
		簿記会計の基礎	講義	1年前期	2	開講	しない	2022入学者対象科目
		会計学の基礎	講義	1年前期	2	開講	しない	2022入学者対象科目
	経営管理の基礎	講義	1年前期	2	開講	しない	2022入学者対象科目	
	経営管理の応用	講義	1年後期	2	開講	しない	2022入学者対象科目	
	経営学総論	講義	2年前期	2	開講	しない	2022入学者対象科目	
	自然科学	統計学の基礎	講義	1年前期	2	岡澤 裕子	専任教員	
		自然科学の基礎	講義	1年後期	2	岡澤 裕子	専任教員	
		公衆衛生学	講義	2年後期	2	土屋 厚子	非常勤講師	2023以降入学者対象科目
						東 佳美	非常勤講師	
		数の世界	講義	1年前期	2	岡澤 裕子	専任教員	
		くらしと科学	講義	1年後期	2	坂田 尚子	専任教員	
		自然探究と科学	講義	2年前期	2	坂田 尚子	専任教員	
		データサイエンスの基礎	講義	1年後期	2	岡澤 裕子	専任教員	
		生活と工学	講義	2年前期	2	岩井 宏	専任教員	
		生命と倫理	講義	1年後期	2	開講	しない	2022入学者対象科目
	医学知識	講義	1年後期	2	開講	しない	2022入学者対象科目	
	外国語	英語A	演習	1年前期	2	向山 守	専任教員	
						梅田 泰	非常勤講師	
		英語B	演習	1年後期	2	向山 守	専任教員	
						梅田 泰	非常勤講師	
		英語C	演習	2年前期	2	鈴木 元子	非常勤講師	
		英語D	演習	2年後期	2	鈴木 元子	非常勤講師	
英語コミュニケーションA		演習	1年前期	2	副島 好子	非常勤講師		
英語コミュニケーションB		演習	1年後期	2	副島 好子	非常勤講師		
英語コミュニケーションC		演習	2年前期	2	副島 好子	非常勤講師		
英語コミュニケーションD		演習	2年後期	2	副島 好子	非常勤講師		
中国語A		演習	1年前期	2	周 佩芳	非常勤講師		
中国語B		演習	1年後期	2	周 佩芳	非常勤講師		
韓国語A	講義	1年前期	2	張 昌鎬	専任教員			
韓国語B	講義	1年後期	2	張 昌鎬	専任教員			
スポーツ	生活と健康	講義	1年前期	2	齋藤 剛	専任教員	2022入学子ども学部生必修	
	スポーツ実習	演習	1年通年	2	齋藤 剛	専任教員	子ども学部2022入学生のみ履修可 必修	
					木戸 直美	専任教員		
	生涯スポーツⅠ	実習	1年前期	1	齋藤 剛	専任教員		
					田口 多恵	専任教員		
	生涯スポーツⅡ	実習	1年後期	1	太田 洋一	専任教員		
	レクリエーション概論	講義	1年前期	2	青野 宏子	非常勤講師		
レクリエーション・ワーク	演習	1年後期	1	青野 宏子	非常勤講師			
レクリエーション実習	演習	2年後期	1	齋藤 剛	専任教員			

【全学共通基礎科目】2022～2025年度入学者

	分野	科目名称	講義形態	配当年次	単位数	教員氏名	専任/非常勤	備考欄	
全学共通基礎科目	総合基礎	教養講読A	演習	3年前期	2	向山 守 岡澤 裕子	専任教員 専任教員	2025入学者 2年次担当	
		教養講読B	演習	3年後期	2	向山 守 田崎 裕美	専任教員 専任教員	2025入学者 2年次担当	
		教養研究A	演習	4年前期	2	向山 守	専任教員	2022～2024入学者対象科目	
		教養研究B	演習	4年後期	2	向山 守 太田 洋一	専任教員 専任教員	2022～2024入学者対象科目	
		基礎セミナーⅠ	演習	1年前期	1	ActiveAcademyAdvance参照		必修	
		基礎セミナーⅡ	演習	1年後期	1	ActiveAcademyAdvance参照		必修	
		基礎セミナーⅢ	演習	2年前期	1	岡澤 裕子	専任教員	必修(2022入学者対象科目)	
		キャリア支援Ⅰ-A	演習	2年前期	1	坪倉 篤志	専任教員	必修	
		キャリア支援Ⅰ-B	演習	2年後期	1	坪倉 篤志	専任教員	必修	
		キャリア支援Ⅱ-A	演習	3年前期	1	坪倉 篤志	専任教員	必修	
	キャリア支援Ⅱ-B	演習	3年後期	1	坪倉 篤志	専任教員	必修		
	キャリア支援Ⅲ-A	演習	4年前期	1	坪倉 篤志	専任教員			
	キャリア支援Ⅲ-B	演習	4年後期	1	坪倉 篤志	専任教員			
	スタディツアー(国際交流について学ぶ)	演習	1年通年	2	木戸 直美	専任教員			
	情報	情報リテラシー		演習	1年前期 or 1年後期	2	岩井 宏	専任教員	社会福祉学部は前期開講 子ども学部は後期開講
							岡澤 裕子	専任教員	
		表計算演習	演習	1年後期	2	岩井 宏	専任教員		
		コンピュータシステムA	講義	1年前期	2	岩井 宏	専任教員		
		コンピュータシステムB	講義	1年後期	2	岩井 宏	専任教員		
		情報社会と倫理	講義	1年後期	2	岩井 宏	専任教員	2022～2024入学者対象科目	
情報セキュリティと情報倫理		講義	1年後期	2	岩井 宏	専任教員	2025入学者対象科目		
マルチメディア表現演習A		演習	2年前期	2	岩井 宏	専任教員			
マルチメディア表現演習B		演習	2年後期	2	岩井 宏	専任教員			
情報と職業		演習	2年後期	2	開講しない		2022入学者対象科目		

静岡福祉大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営規程

(目的)

第1条 この規程は、静岡福祉大学における数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（以下「本プログラム」という。）の運営、評価および改善に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

2 本プログラムは、本学の教育分野（福祉、介護、心理、教育、保育）において、データに基づく分析力と情報活用能力を養い、地域社会に貢献できる人材を育成することを目指す。

(運営責任者)

第2条 本プログラムの運営責任者は教務部長とし、プログラムの企画、実施および改善に関する最終責任を負う。

(運営委員会の設置)

第3条 本プログラムの実施および改善を図るため、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会」（以下「運営委員会」という。）を設置する。

2 運営委員会は、次の構成員をもって組織する。

教務部長（委員長）

社会福祉学部代表教員

子ども学部代表教員

教務課職員

必要に応じて、地域連携推進センター教員、外部有識者（福祉施設、自治体、教育機関等）

3 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(業務)

第4条 運営委員会は、次に掲げる業務を行う。

- (1) プログラム科目の企画・改訂および履修モデルの設計
- (2) 修了要件および履修指導方法の検討・改善
- (3) 授業方法・教材（ICT 教材、福祉・教育現場のデータ活用演習等）の改善
- (4) 学生支援・広報活動（履修ガイダンス、相談体制の整備等）
- (5) 自己点検・評価および改善計画の策定
- (6) 地域社会・福祉機関・教育現場との連携推進

(自己点検・評価)

第5条 本プログラムは、毎年度終了時に自己点検・評価を行い、次の事項を明らかにする。

- (1) プログラムの履修・修得状況
 - (2) 学修成果
 - (3) 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度、他の学生への推奨度
 - (4) 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況
 - (5) 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価
 - (6) 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見
- 2 運営委員会は、自己点検・評価に基づき改善計画を策定し、学長に報告するとともに、その概要を学内外に公表する。

(修了要件および修了証)

第6条 本プログラムの修了要件は次のとおりとする。

- (1) リテラシーレベルは、「データサイエンスの基礎」の単位取得
 - (2) 応用基礎レベルは、プログラム開始時に定める科目の単位取得
- 2 修了要件を満たした学生には、学長名により「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム修了証」を授与する。

(改廃)

第7条 この規程の改廃は、運営協議会の議を経て、学長が行う。

附 則 (令和7年10月22日 第16号)

この規程は、令和7年11月1日から施行する。

静岡福祉大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営規程

(目的)

第1条 この規程は、静岡福祉大学における数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（以下「本プログラム」という。）の運営、評価および改善に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

2 本プログラムは、本学の教育分野（福祉、介護、心理、教育、保育）において、データに基づく分析力と情報活用能力を養い、地域社会に貢献できる人材を育成することを目指す。

(運営責任者)

第2条 本プログラムの運営責任者は教務部長とし、プログラムの企画、実施および改善に関する最終責任を負う。

(運営委員会の設置)

第3条 本プログラムの実施および改善を図るため、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会」（以下「運営委員会」という。）を設置する。

2 運営委員会は、次の構成員をもって組織する。

教務部長（委員長）

社会福祉学部代表教員

子ども学部代表教員

教務課職員

必要に応じて、地域連携推進センター教員、外部有識者（福祉施設、自治体、教育機関等）

3 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(業務)

第4条 運営委員会は、次に掲げる業務を行う。

- (1) プログラム科目の企画・改訂および履修モデルの設計
- (2) 修了要件および履修指導方法の検討・改善
- (3) 授業方法・教材（ICT 教材、福祉・教育現場のデータ活用演習等）の改善
- (4) 学生支援・広報活動（履修ガイダンス、相談体制の整備等）
- (5) 自己点検・評価および改善計画の策定
- (6) 地域社会・福祉機関・教育現場との連携推進

(自己点検・評価)

第5条 本プログラムは、毎年度終了時に自己点検・評価を行い、次の事項を明らかにする。

- (1) プログラムの履修・修得状況
 - (2) 学修成果
 - (3) 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度、他の学生への推奨度
 - (4) 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況
 - (5) 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価
 - (6) 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見
- 2 運営委員会は、自己点検・評価に基づき改善計画を策定し、学長に報告するとともに、その概要を学内外に公表する。

(修了要件および修了証)

第6条 本プログラムの修了要件は次のとおりとする。

- (1) リテラシーレベルは、「データサイエンスの基礎」の単位取得
 - (2) 応用基礎レベルは、プログラム開始時に定める科目の単位取得
- 2 修了要件を満たした学生には、学長名により「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム修了証」を授与する。

(改廃)

第7条 この規程の改廃は、運営協議会の議を経て、学長が行う。

附 則 (令和7年10月22日 第16号)

この規程は、令和7年11月1日から施行する。

大学等名	静岡福祉大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	静岡福祉大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシー）	申請年度	令和7年度

取組概要

プログラムの目的

数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な素養や技能を修得し、日常生活において適切に使うことができる力を身に着けること。

身に付けられる能力

- ・ AIの概要と、AIとデータが社会でどのように活用されているのかを説明できる。
- ・ 様々なデータを正しく読み、表現するための基礎的な技能を修得する。

開講科目の構成

データサイエンスの基礎：（2単位・必修）

※ただし、卒業要件上の必修科目ではなく、プログラムの修了のための必修である。

修了要件

プログラムを構成する全学共通基礎科目「データサイエンスの基礎（2単位）」の単位を取得すること。

実施体制等

数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会が、同プログラムの運営・評価・改善に関して必要な業務を行う。必要に応じて、他の委員会組織等と連携を図る。